

「若手の職員」のインタビューから

～石川労働局総務部総務課人事係 作成～

《労働基準監督官編》

問1. 数ある就職先の中から、労働局を選んだ理由は？

- 大学での勉強やアルバイトの経験を経て、労働問題に関心が高まったから。
- 自身が学んだ法律の知識を生かせるから。
- 監督・安全衛生・労災と多岐にわたる職務があり、自分の能力を監督官として様々な場面で生かせるのではないかと思ったから。
- 小さい頃から、父親が私生活を犠牲にして働く姿を見て、現在の労働に疑問を感じ、この仕事なら労働環境の改善のために役立てると思ったから。
- 働く中で生じるトラブルや困難に労働基準監督官として立ち向かい、その解決を図る手助けをしたいと思ったから。
- 労働基準監督官が扱う法律が日常に根付いており、法律に沿って指導した内容が労働者の職業生活に還元できることが魅力と感じ志望した。
- きっかけは過労死関連のニュースをよく見かけたこと、欧米と日本の労働環境の違いを知り、残業は当たり前のものではないと気付いたこと。労働環境の改善をする仕事はないのか調べた際に、労働基準監督官を見つけ志望した。

問2-1. 労働局に入って「良かったなあ」と感じたのはどんなとき（こと）？

- 普段は見ることのできない様々な仕事の現場を覗くことができること。
- 相談者や申告人から感謝されたとき。有給休暇を取得しやすいこと。
- 相談者の期待されていることに応えられないことも多いが、こちらの主張に対し前向きに対応してもらい状況改善が図れたとき。
- 様々な業種の事業主（代表者）や労働者と直接話ができ、世間の状況がつぶさに肌で感じられること。
- 生活を支える基盤の「労働」に関わる相談を受けることは大変だが、頼りにされていると実感したとき。ほとんど残業が無い点。

問2-2. 労働局に入って「大変だなあ」と感じたのはどんなとき（こと）？

- 相談業務に難しさを感じます。単に話を聞くのではなく、相談者が何を求めているのか、その求めに対して私たちはどのような対応が可能なか等を常に考えながら相談に乗る必要があるから。
- 日々様々な相談に、労働関係法令の知識をもってお答えしますが、難しい事案も多い。分からないことがあれば先輩方に質問してお答えしています。先輩方は丁寧に教えてくれますのでとても頼りにしています。